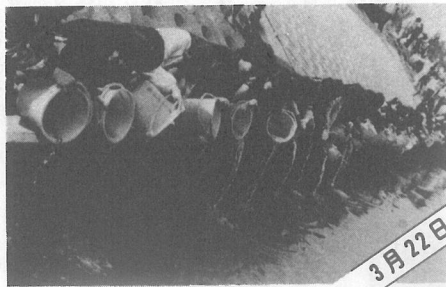


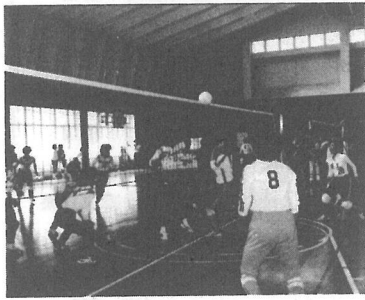
旅立ち



3月22日

「早く大きくなって帰って来いヨ
オ」

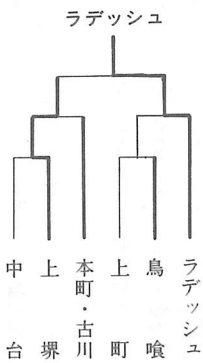
今年もサケの稚魚九十万八千匹が、子供たちの夢をのせて放流されました。稚魚たちは、銀色に輝く小さな体をさつねらせながら、勢いよく水中に消え、怒濤をかまく大海へと旅立って行きました。本当に帰ってくるだろうか、ちよっぴり、川の汚濁が気になりますネ!



初優勝!

2位 上 塚
3位 鳥 喰
(3位決定戦)

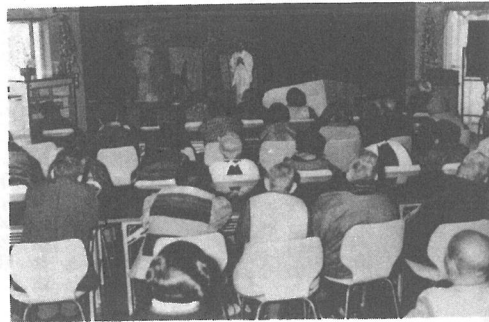
第六回町婦人バレーボール大会 2/6



いやあく感動したなあ

横中生徒がホーム慰問

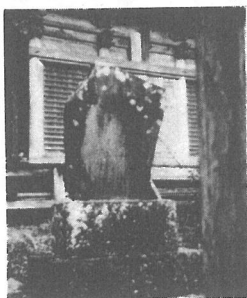
横芝中学校のブラスバンド部と演劇クラブが、三月七日養護老人ホームを慰問しました。同校は、県の社会福祉協議会から福祉教育の推進校として指定され、いろいろな分野で活動を展開しています。この慰問もその一環で、お年寄り向きの日本民謡の演奏や、人間と動物の愛情豊かな交流をテーマにした劇「つるの恩がえし」を披露し、万雷の拍手をうけました。生徒たちの心のこもった熱演ぶりにすっか



り感動したお年寄りたちは、年輪のきざまれた顔を紅潮させ、ひとり一人に感謝の手をさしのべていました。

求める位で、測量家としても立派に一家を創立できるまでになりました。処が、長年机に向って座っていたことが因で、歩行が不自由になってしまいました。歩行困難ということは測量家には致命傷です。年来の雄図を失った先生・・・しかし、先生は剛気でした。「自分の蓄積した知識を次代の人へ」と、その教への門を開いたのです。噂を聞いた人々は競って先生の門を叩き、また、近くを旅する人々で、少しでも測量学に心を寄せる人は、必ず先生を訪れた、ということでした。先生は、自分の研究によって開明された知識や技術方法等も、誰彼の別なく教授されましたので、先生の教えを受けた人々が世の中のために数々の役立つ仕事を残され、その度毎に先生の名声は高まって来ました。そして、時の地頭職、戸塚某は、先生の功績を賞して常時帯刀を許しましたが、謙虚な先生は、明治十年に六十八才で病没されるまで、止むを得ない公の行事以外は、生涯刀を手にされることがありませんでした。忍容、謙讓、勤勉、そして温厚な先生の面影は、幾百の子弟友人の心に残り、先生が逝かれた翌年、追慕の心は一つの碑となって先生を弔徳することになったのです。

新入学(園)児を交通事故から守ろう!



●写真はその碑で「宇井先生墓碑、先生諱正雄稱左源太南総武射郡木戸台人也、諱元助本姓井上、先生幼而志学師事同郡内富田先生業已成而教育閭里子弟自以為娛其為人清介淳素恭謙遜富冠郷里而不敢驕愈進行益々慎傍講究算測量ノ術求不敢衛人有問篤則答而已其不殆能也猶無他技者矣、又好愛客故墨人前士名一芸者過其郷即未嘗不訪先生ノ門(中略)後懼脚疾荏苒不得健歩蓋積年端座勤學之処致也、文久辛酉地頭戸塚君許稱姓帯刀然先生謹厚非公事不敢帶常恐虛文之過實故(中略)明治丁丑十一月病歿、享年六十有八葬、門下生追慕不吝嗟哀嘆之相謀欲樹碣記德碑其令名永久不朽云々・明治十一歳以戊寅七月、栢碧、佐瀬喜道撰並書と刻まれています。(本稿取材に当り、木戸台の菅沢惣吉氏、宇井彰氏、横芝の井上利男氏のご協力を頂きました。尚紙面の都合で碑文の一部と案内図を割愛させて頂きました。)